

藤本由紀夫 個展「STARS」 2017年12月2日(土) - 2018年2月3日(土)



藤本由紀夫, STARS, 1990, mixed media, 18 点組

藤本由紀夫は1950年に名古屋市で生まれ、2001年と2007年にヴェニスビエンナーレに出品、同年に国立国際美術館、西宮市大谷記念美術館、和歌山県立近代美術館にて同時個展を開催するなど、関西を中心に国際的な活動を続けています。

70年代を音楽スタジオで過ごした藤本は伝統的な美術表現の外からやってきたアーティストです。「音とモノ」を出発点とし聴覚、視覚、嗅覚、触覚を喚起する独創的な作品の数々を制作してきました。

藤本は幼少期より自宅で父親が使わなくなったカメラ、映写機、オープンリールのレコーダーなど50-60年代に最先端であった機器をおもちゃ代わりにして過ごしました。遊びの延長でテープの音を切り繋いだり、ラジオのノイズを録音していた経験は、後年当時としては珍しく全室スピーカーの設備が備えられた大阪芸術大学の電子音楽のコースへ進むきっかけでもありました。電子音楽もアナログからデジタルへの移行期を迎える頃「スピーカーから発する音が全て等質に聞こえる」経験をした藤本はやがてスタジオを出ます。そして再び自宅で藤本が見つけたものはおもちゃのオルゴールでした。大きな音を作ることから小さな生の音を聞くことへの転換における新鮮な驚きと共に、音とは共鳴する空間そのものである、という気づきはその後の制作に大きく影響を与えます。また幼少の頃よりそうとは知らずに印象付けられていたマルセル・デュシャンの世界に足を踏み入れ、さらにジョン・ケージを見直し検証するに至ったのもこの時期のことです。

ShugoArts

1990年には目に見えないが空間の中に存在している気配や振動を聞く装置、EARS WITH CHAIR を発表しました。二本の長いパイプの筒を通して耳の形を変形させたような状態で、通常気がつかないで過ごしている周囲の音が増幅されて聞こえてくるこの作品は、オルゴールやパイプのような大量生産されたレディメイドを用いる一方で、作品を通じて発見されうる外界への新たな認識手段を鑑賞者それぞれの感覚へ委ねるという藤本作品に共通する態度が窺えます。



Yukio Fujimoto, *EARS WITH CHAIR (MOT)*, 2007, Steel, PVC pipe, Chair, H130xW450xD200cm

2011年に始まった THE MUSIC はシェーンベルクの十二音技法に基づき、反転、逆再生、iPhone アプリによる偶然性などの要素によって4つの面に36個のオルゴール音をとつけたもので、鑑賞者が演奏することで成立します。



Yukio Fujimoto, *The Music (Four-Panel Folding Screen)*, 2013, mixed media (wooden frames, acrylic panel, music boxes), 4 panels of 205x87x6.3cm

ShugoArts

2016年にシュウゴアーツ・ウィークエンドギャラリーで開催された展覧会では、レコード盤上に石炭が敷き詰められ、鑑賞者がその上を歩くことで音の演奏者になる Broom(Coal)のインスタレーションが好評を博しました。



Yukio Fujimoto, Broom(Coal), 2016, coal, rubber sheet, dimension variable, ed.5

今展では 54 個のオルゴールが 1 音ずつ音を奏でる代表作 STARS (1990 年作) を新しいシュウゴアーツの空間において配置します。タイトルの STARS は夜空に浮かぶ一つ一つの星をつなぎ合わせ星座の物語を作った人間の視覚認識に基づいており、1 音ずつランダムに発生する音を頭の中で和音に構成しなおし、パターンやメロディーとして聞かすにはいられない人間の聴覚の可能性を示唆します。世界を生成し、存在させているのは他ならぬ私達自身であるのかもしれませんが。さらに新作の展示を含め、東京で藤本由紀夫作品を体感する貴重な機会となっておりますのでどうぞご期待下さい。

シュウゴアーツ ディレクターズ 2017 年 10 月

星 (STARS)

夜空をキャンバスとする星々は、それぞれ規則的な運動をしている。しかしそれらの規則的な運動をする星達が一堂に会した天空は、ランダムな点の集合体には見えない。この天空の時計装置を読み取るために古代の人々は、特徴ある星と星を結び、具体的な形を創造し記憶に留めた。つまり、星座は星空に存在するのではなく、それを見る人が、目に見えるものから「創造」したイメージなのである。

「星(STARS)」は、音を空間に点在させ、それを聞く人が、音と音を結びながら、それぞれの音のパターン(音楽)を作りだすことを目的に制作された。一つの星に相当するのがオルゴールの一音である。54個のオルゴールは、それぞれ一音のみ発音する。一つ一つのオルゴールは、それぞれ規則的に音を出しているが、すべてが鳴り響く空間では、ランダムな音の集合となる。そのような音の空間にたたくと、我々は星座を作り出すのと同様に、音と音をつなぎ合わせ、特徴のあるフレーズを知らず知らずに作っている。

記憶に留められた音は、時間軸上に配列され、メロディの断片として知覚される。と同時に、その音のパターンは、空間を結ぶ線によって出来上がるフォルムともなっている。ここでは、時間の体験と空間の体験が同時に行なわれているのである。聞く人の耳によって。

YUKIO FUJIMOTO

objects, installations and performances

西宮市大谷記念美術館, 1998

展覧会概要

展覧会名: STARS

作家名: 藤本由紀夫

会期: 2017年12月2日(土) - 2018年2月3日(土)

*年末年始休暇: 2017年12月28日(木) - 2018年1月8日(月)

会場: シュウゴアーツ 106-0032 東京都港区六本木6丁目5番24号 complex665 2F

開廊時間: 火~土曜 午前11時 - 午後7時, 日月祝休廊

オープニングパーティー: 12月2日(土) 午後5時から7時

その他展覧会参加情報

本展と会期をほぼ同じくして、千代田区立日比谷図書文化館の特別展「20th DOMANI・明日展 PLUS×日比谷図書文化館 - Artists meet Books 本という樹、図書館という森」に参加いたします。

会期 | 2017年12月14日(木) ~ 2018年2月18日(日)

会場 | 千代田区立日比谷図書文化館 1F

関連イベント | 「書物/アートという装置、読書という体験」

日時: 2018年1月7日(日) 14:00~15:30 (13:30 開場)

場所: 日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

出演: 藤本由紀夫、折笠良、蓮沼昌宏

詳細: <http://hibiyal.jp/>